

HONDA®

パル

取扱説明書



取扱説明書をよく読んで
安全な運転をしましょう。

ご案内

このたびはホンダ車をお買いあげいただきありがとうございました。
お車や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげた
いた(ホンダ販売店)または下記のご相談窓口)にお気軽にお申し付けください。
なお、各地区のホンダ二輪代理店でもお受けいたしております。

名 称	電 話 番 号	郵便番号	所 在 地
本田技研工業株式会社 お客様相談部 東 京	03(3423)4211	107	東京都港区南青山2-1-1
本田技研工業株式会社 お客様相談部 札 幌	011(781)2929	065	北海道札幌市東区本町2条10-2-29
本田技研工業株式会社 お客様相談部 仙 台	022(288)6561	983	宮城県仙台市若林区六丁の目西町1-10
本田技研工業株式会社 お客様相談部 名古屋	052(363)2929	454	愛知県名古屋市中川区五月通4-22
本田技研工業株式会社 お客様相談部 大 阪	0720(29)7755	572	大阪府寝屋川市池田中町2-12
本田技研工業株式会社 お客様相談部 福 岡	092(962)2466	811-01	福岡県粕屋郡新宮町大字下府字塩出599

- 所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。
- ホンダ二輪代理店につきましては別冊「整備手帳」の住所一覧をご覧ください。

ご購入の前に

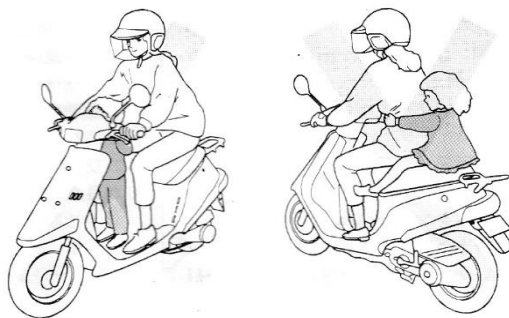
この取扱説明書には、お買いあげいただいたお車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検の方法などについて説明してあります。

より快適に、より安全にお乗りいただくために、この説明書をぜひお読みください。また整備手帳、セーフティポイント(安全にお乗りいただくためのアドバイス)もぜひお読みください。

お買いあげになりましたら、ホンダ販売店にて「取扱説明書」「整備手帳」「セーフティポイント」を受け取り、下記の説明を受けてください。

- ★お車の正しい取扱いかた
- ★保証内容と保証期間
- ★車両受領書・保証書受領書記入・捺印
- ★点検・整備について

- 車両の仕様、その他変更により、本書の写真および絵などが実車と異なる場合がありますのでご了承ください。
- この車は1人乗りです。2人乗りは、安全上からもまた法律でも禁止されています。
2人乗りはやめましょう。



目次

安全運転のために	3	運行前点検・定期点検	21	バッテリーターミナル部の清掃	32
改造	4	運行前点検	21	ヒューズの交換	33
服装	4	前日の異常箇所の点検	22	エアクリーナエレメントの清掃、	
荷物	5	ブレーキレバーの引きしろ、		交換	34
各部の名称	6	きき具合	22	エンジンオイルの補給	34
メータの見かた・使いかた	8	タイヤの点検	22	ケーブル類のラバーブーツの点検	35
計器類	8	燃料の量の点検	23	車のお手入れ	35
表示灯・警告灯	8	エンジンオイル量の点検	24	色物部品をご注文のとき	36
スイッチの使いかた	9	灯火装置、方向指示器の点滅具合		マフラの純正マークについて	36
メインスイッチ	9	汚れ、損傷の点検	24	フレーム号機	36
方向指示器	9	後写鏡(バックミラー)の写影の点検	24	エンジンが始動しないとき	37
スタータボタン	9	自動車登録番号標(ナンバープレート)の		諸元表	38
警音器ボタン(ホーンボタン)	10	汚れ、損傷の点検	24	サービスデータ	39
前照灯上下切替えスイッチ	10	反射器の汚れ、損傷の点検	24		
装備の使いかた	11	6か月点検	25		
ハンドルロック	11	かじ取りホーク(フロントホーク)の			
シートロック・ヘルメットホルダ	11	点検	26		
ブレーキロックレバー	12	ブレーキの点検	26		
書類入れ	12	タイヤの点検	26		
トランク	13	バッテリー液量の点検	27		
正しい運転操作	14	エアクリーナエレメントの点検	28		
エンジンのかけかた	14	エンジンオイルの点検	29		
スタートするとき	16	トランスミッションオイルの点検	29		
正しい走りかた	17	燃料漏れの点検	30		
止まりかた	19	灯火装置、方向指示器の作用の点検	30		
		シャシ各部の給油脂状態	30		
		簡単な整備	31		
		ブレーキレバーの遊びの調整	31		

安全運転のために

心のゆとりと正しい服装が安全運転のキメ手です。
道路交通法を守り、あせらずにゆとりを持って落ち着いた運転を心がけましょう。

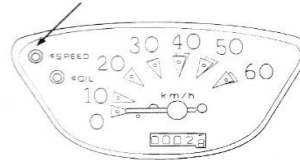
- 車を購入された当初は、いろいろ注意をはらって運転しますが、少し慣れてくるとこれらの注意を忘れがちになり、事故を起こす場合があります。
車に乗るとき、いつも心がけなければならない重要な注意事項を書いた「安全項目ラベル」が車に貼ってありますので、これらの注意をいつもお守りください。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- 法定速度を守りましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れない場所にとめましょう。
- 安全運転、迷惑防止のため違法改造はやめましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 定められた点検整備を励行しましょう。

あなたのお車には運輸省の指導により、スピードメータ部に車の速度が30km/hを越えると注意をうながす速度警報装置(点滅式)が装備されています。

運転に際しましては下記の内容を十分ご理解のうえ、正しい取扱いと安全運転を心がけてください。

- あなたのお車の法定最高速度は30km/h。
- 2人乗りは出来ません。
- ルール・マナーを守って安全運転を心がけましょう。
- お出かけの前の点検をお忘れなく。
- 定期点検は、必ず受けてください。
- 「セーフティポイント」をよくお読みください。

速度警報装置



速度を上げないでください

速度を上げないでください

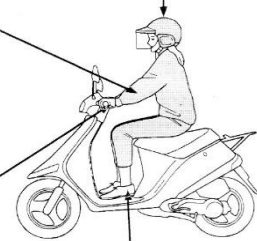
改造

- 車の構造や機能に関する改造は、操縦性を悪化させたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになります。
このような改造は、法律に触れることは勿論、車の保証を受けられないので、改造しないでください。

服装

そで口が開いている服装は風になびきブレーキレバーにひっかかることがありますので、そで口がすっきりした服を選びましょう。

ヘルメットをかぶって、しっかりあごひもを締めましょう。



ハンドルはしっかりと握り、片手運転はやめましょう。

はきものは足にピッタリした、かかとの低いものにしましょう。

正しい運転操作

エンジン始動

スタートするとき

止まるとき

止まらないうち

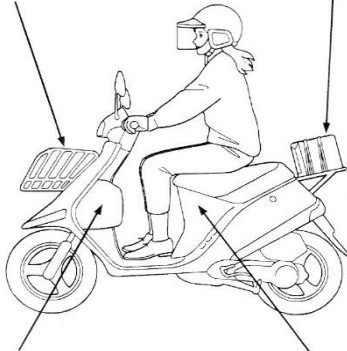
荷 物

荷物を積むと、積まないときに比べてハンドルの感覚が少し変わりますから注意しましょう。積みすぎると、ハンドルがふられ運転を誤めることがありますので、積みすぎに注意しましょう。

- 荷物の積載は下記重量までです。

オプションの
フロントバスケットまたは、
フロントキャリアへの
最大荷物重さ： 3 kg

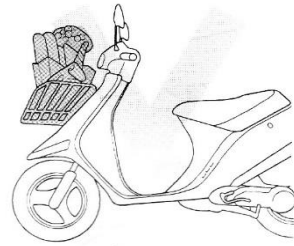
リヤキャリアへの
最大荷物重さ： 3 kg



オプションの
インナラックへの
最大荷物重さ： 1.5 kg

トランクへの
最大荷物重さ： 5 kg

- オプションのフロントバスケットから荷物がはみ出したり、前照灯（ヘッドライト）をふさがないようにしましょう。ハンドル操作や、前照灯の照明に支障をきたすことがあります。



注意

- シートの下に布等を入れないでください。オイルタンクキャップの空気穴をふさいで、エンジンオイルの給油が悪くなり、エンジンが焼付くことがあります。
- フレームボディカバーとエンジンの上に布等を入れないでください。焼損することがあります。
- 荷物は指定の場所以外には積まないでください。カバー等が破損することがあります。

5

各 部 の 名 称

前照灯上下切替えスイッチ
(P. 10)

方向指示器(P. 9)

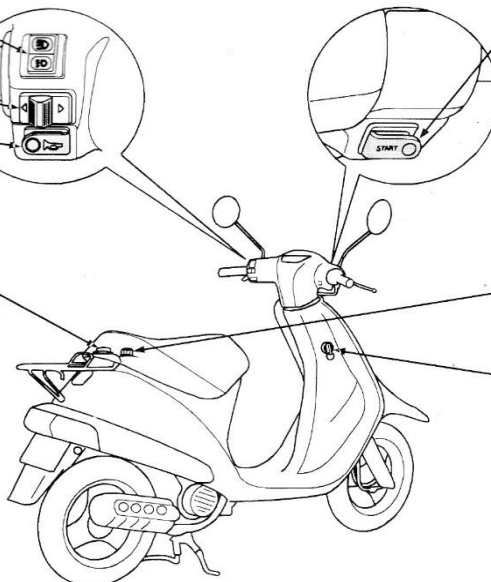
警音器ボタン(ホーンボタン)
(P. 10)

ガソリン注入口(P. 23)

スタータボタン
(P. 9)

オイル注入口(P. 34)

メインスイッチ(P. 9)



6

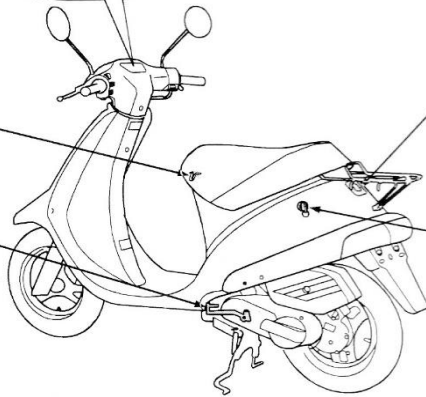
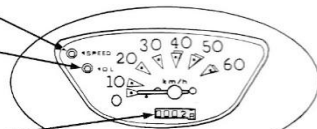
速度警告灯(P. 8)

オイル警告灯(P. 8)

積算距離計(P. 8)

ヘルメットホルダ(P. 11)

キックスタータペダル

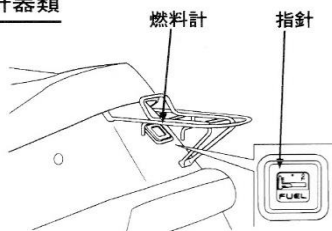


燃料計(P. 8)

シートロック(P. 11)

メータの見かた・使いかた

計器類

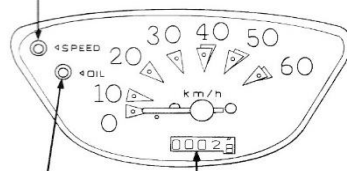


燃料計

燃料タンク内のガソリンの量を示します。指針が赤ワクに入りかけたときは、早めにガソリンを補給してください。燃料計の指針が赤ワクに入りかけたときの燃料有効残量は約 0.8 ℓ

表示灯・警告灯

速度警告灯



オイル警告灯 積算距離計(オドメータ)

オイル警告灯

オイルタンク内のオイルが少なくなると点灯します。点灯したら、ホンダウルトラ2スーパーを補給してください。

注意

- メインスイッチのキーを“ON”にしたとき、オイル警告灯が点灯した場合は、オイルが少なくなっているので、できるだけ早目に推奨オイルホンダウルトラ2スーパーを補給してください。

速度警告灯

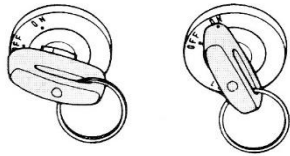
速度が30 km/hを越えると、点滅します。

積算距離計(オドメータ)

走行した距離を示します。

スイッチの使いかた

メインスイッチ

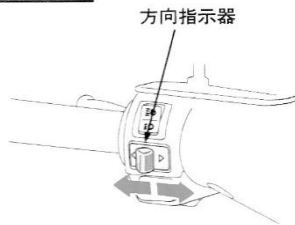


LOCK ……ハンドルがロックされます。
キーの差し抜きができます。

OFF ……エンジン停止位置です。
キーの差し抜きができます。

ON ……エンジンがかかります。
キーはぬけません。

方向指示器



メインスイッチのキーを“ON”にしてスイッチを入ると、方向指示器が作動します。

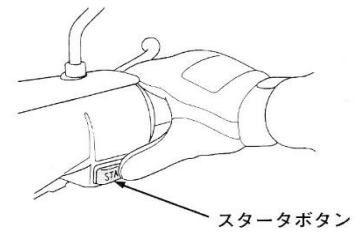
▶ ……右に曲がるときに操作します。

◀ ……左に曲がるときに操作します。

注意

- スイッチは、自動的にもとに戻りません。使い終わったら必ずもとに戻してください。戻し忘れると他の方の迷惑となります。

スタータボタン



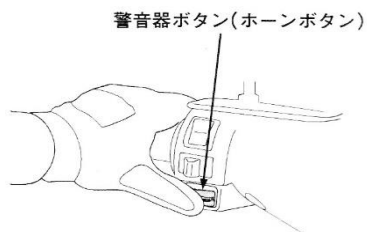
メインスイッチのキーを“ON”にしてブレーキレバーを握り、ボタンを押すとエンジンがかかります。

注意

- ブレーキをかけた状態でないとエンジンはかかりません。

9

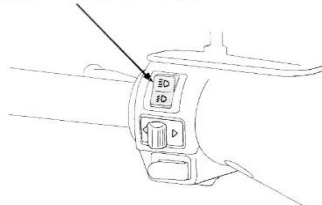
警音器ボタン(ホーンボタン)



メインスイッチが“ON”のとき、警音器ボタン(ホーンボタン)を押すと警音器(ホーン)が鳴ります。

前照灯上下切替えスイッチ

前照灯上下切替えスイッチ



前照灯(ヘッドライト)の照射角を上下に切替えるスイッチです。

ED ……遠くを照らしたい場合に使用します。

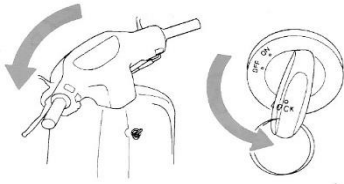
ED ……対向車のあるとき、市街地走行など上向きが不適當なときは、下向きにしてください。

注意

- 昼間は、下向き(ロービーム)に点灯しましょう。

装備の使いかた

ハンドルロック



盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけましょう。
チェーンロック等のご使用もおすすめします。

《かけかた》

ハンドルを左にいっぱいいきり、メインスイッチのキーを“LOCK”の位置に回します。

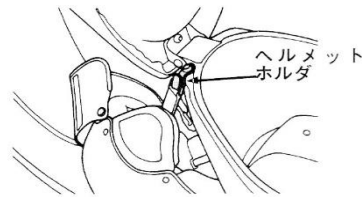
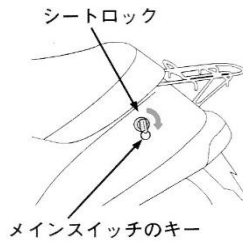
《外しかた》

メインスイッチのキーを“LOCK”から“OFF”に回すとロックが解除されます。

注意

- “LOCK”の位置で、ハンドルが確実にロックされているか、ハンドルを左右に軽く動かして確認してください。
- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。

シートロック ● ヘルメットホルダ



《かけかた》

1. メインスイッチのキーでシート後部下のシートロックを外し、シートを開けます。
2. ヘルメットのあごひもの金具をヘルメットホルダにかけます。
3. シートをおろすとシートロックがかかります。シートをもち上げ、ロックがかかったかを確認します。

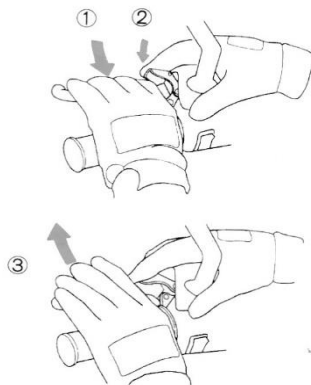
《外しかた》

- メインスイッチのキーでシートを開けて、ヘルメットを取外します。

注意

- ヘルメットをヘルメットホルダにつけたまま走行しないでください。つけたまま走行すると車の部品に損傷を与えます。またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

ブレーキロックレバー

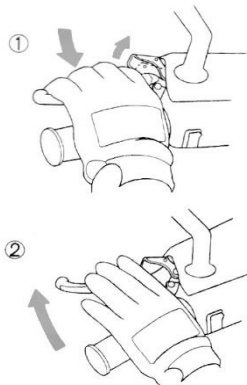


《かけかた》

- ① 後輪用ブレーキレバーを強く握ります。
- ② ブレーキロックレバーを矢印の方向に動かしてブレーキレバーにセットしながらブレーキレバーを放せば、後輪はロックします。

注意

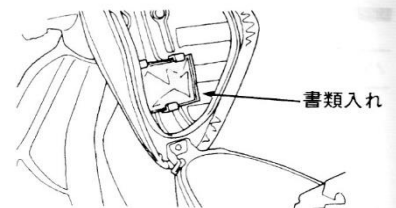
- 後輪ブレーキの調整が正しく行われていないとロックできません。



《外しかた》

- ① 後輪用ブレーキレバーを強く握ると、自動的にロックレバーが外れます。
- ② 後輪用ブレーキレバーから手を放せば、後輪ロックは外れます。

書類入れ

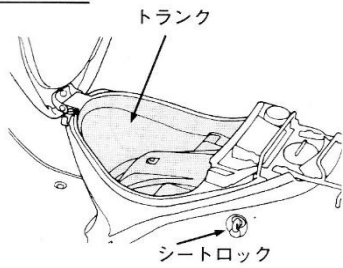


シート裏側に書類入れがあります。
取扱説明書や整備手帳は、ここに保管してください。

注意

- キーをシートの下に置き忘れた状態でシートを下げると、自動的にロックされ、キーを取り出すことができなくなりますのでご注意ください。
- 燃料タンクとシートの上に布きれなどを置いて乗車しますとタンクに無理な力がかかり変形することがあります。布きれなどは置かないでください。

トランク



シートの下にトランクがあります。
シートの開閉は、11ページのシートロックを
参照してください。
トランクへの最大荷物重さ: 5 kg

注意

- シートを閉めた後、完全にシートロックがかかったか確かめてください。
- ロックをかけないで走行すると、走行に支障をきたすことがあります。
- トランク内はエンジンの熱で温度が高くなります。熱の影響を受け易い用品、食料品または可燃性のものは入れないでください。

注意

- 貴重品やこわれ易いものは入れないでください。
- 洗車時等、内部に水が入ることがあります。大切なものを入れる場合はご注意ください。

13

正しい運転操作

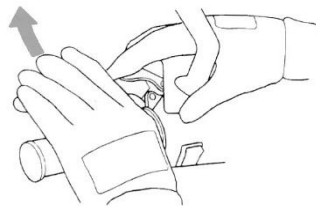
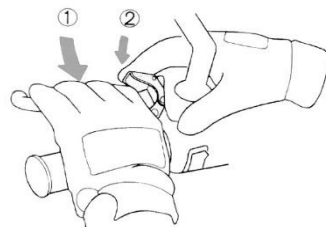
- エンジンをかける前に、オイル、ガソリンなどの点検をしましたか。必ず点検を行ってください。(21ページ参照)
- エンジンをかけるときは、必ずメインスタンドを立ててください。

注意

- 急な飛び出しを防ぐために始動時は、必ず後輪をロックしてください。
- 後輪ブレーキの調整が正しく行われていないとロックできません。

エンジンのかけかた

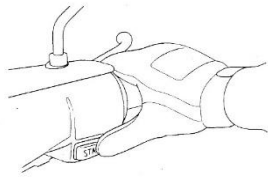
①後輪をロックします。



②メインスイッチを“ON”にします。



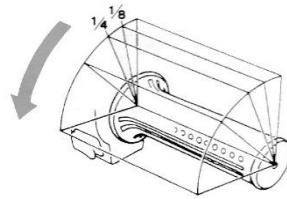
③スロットルグリップを回さずに、スタータボタンを押します。



注意

- エンジンがかかったらすぐに、スタータボタンから手をはなしてください。
- エンジンが回転しているときスタータボタンを押さないでください。エンジンに悪影響を与えます。

• エンジンが暖まっていて3～4秒スタータボタンを押しても、エンジンがかからない。このような場合は、スロットルグリップを1/8～1/4ほど回すとかかりやすくなります。



- 長時間ご使用にならなかった場合や、ガス欠をしたときにガソリンを補給してもエンジンがかかりにくいことがあります。このようなときは、スロットルグリップを回さずにスタータボタンを普段より多目に使用してください。
- バッテリ上がりを防ぐため、スタータモータは連続して15秒以上回さないでください。15秒以上回してもエンジンが始動しなかったときは、10秒以上待って再度スタータボタンを押してください。

④エンジンが冷えているときは、エンジンがかかってからしばらくの間、そのまま暖機をしてください。

注意

- メインスイッチのキーを“ON”にしたとき、オイル警告灯が点灯した場合は、オイルが少なくなっているため、できるだけ早目に推奨オイルホンダウルトラ2スーパーを補給してください。

〈キックスタータペダルを使って始動する場合〉
②まで行った後、力強くキックします。



注意

- エンジンがかかったら、必ずキックスタータペダルをたたくでください。
- エンジンが暖まっていて「3～4回キックしてもエンジンがかからない」このようなときはスロットルグリップを1/8～1/4ほど回すと、かかりやすくなります。
- 長時間ご使用にならなかった場合や、ガス欠をしたときにガソリンを補給しても、エンジンがかかりにくいことがあります。このようなときはスロットルグリップを回さないで、キックペダルを普段より多目に使用してください。

スタートするとき

①メインスタンドを外し、乗車します。

- ブレーキロックレバーが外れないように注意しながら、車を前に押してメインスタンドを外してください。



注意

- エンジンをかけてから走り出すまではエンジンの回転をむやみにあげないでください。

②乗車します。

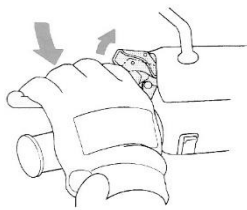


- 車の左側から乗車し、シートにしっかりと腰をおろします。このとき足を地面につけて、倒れないようにしてください。

注意

- 乗車してスタートするまでは後輪ブレーキロックはかけたままにしておいてください。

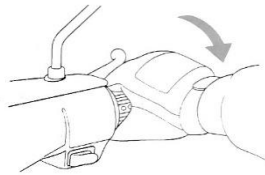
③ 後輪ブレーキレバーを強くにぎり、ブレーキロックレバーを外します。



注意

- 後輪ブレーキロックを外すときは、スロットルグリップをまわさないでください。飛び出しなどの危険性があります。

④ 後輪ブレーキレバーを放し、スロットルグリップをゆっくり回せば、車はゆっくりと走り出します。



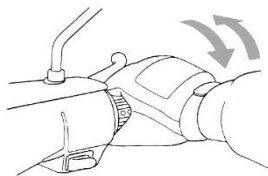
- スロットルグリップをいきなり手前にまわすと急加速して危険です。

正しい走りかた



- スタート前に方向指示器で合図を出し、後方の安全を確認してからスタートしましょう。

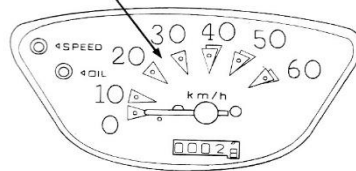
速度調整は、スロットルグリップで行います。



回す……速度が速くなる。
 ゆっくり回しましょう。
 登り坂ではスロットルグリップを徐々に回して力をつけましょう。
 戻す……速度が遅くなる。
 すばやく戻しましょう。

ならし運転を行きましょう。
 お車の寿命を伸ばします。

25 km/h 以下



- 乗り始めて1か月間(又は1000 km)は、25 km/h以下で静かに走りましょう。

ブレーキは、前後輪を同時に使いましょう。



- スロットルグリップを戻してから、ブレーキレバーを握りましょう。
- “はじめやんわり、あときつく”がブレーキの上手なかけかたです。

注意

- どちらか一方のブレーキだけを使うと、車が横すべりして転ぶことがあります。ご注意ください。
- 走行中は、ブレーキロックレバーを操作しないでください。ブレーキがロックされ危険です。

急ブレーキ、急ハンドルはやめましょう。



- 急ブレーキ、急ハンドルは、スリップや転倒の原因になり危険です。
- とくに雨の日や路面がぬれている場合は、急ブレーキをかけるとタイヤがスリップし、横すべりや転倒をおこしやすくなり危険です。

雨の日は、とくに慎重に走りましょう。

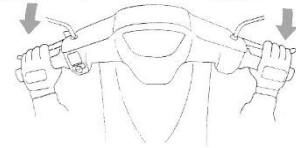
- 雨の日や路面がぬれているところでは、晴天時よりブレーキ停止距離が長くなります。速度を落として走り、早めにブレーキをかけるなど余裕をもって操作しましょう。
- 下り坂では、スロットルグリップを戻して速度に応じてブレーキをかけながらゆっくり走りましょう。
- 水たまりを走行した後や雨天走行時には、ブレーキの効き具合が悪くなる場合があります。水たまりを走行した後などは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。
- 雪道や凍った道はすべりやすいので十分に気をつけて、ゆっくり走りましょう。

止まりかた

①止まる地点が近づいたら、

- 早めに方向指示器スイッチで合図を出し、後方や側方の車に注意し、徐々に左に寄りましょう。

後輪ブレーキ 前輪ブレーキ

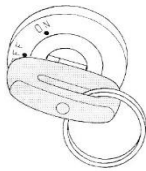


- スロットルグリップを戻して、早めに前・後輪のブレーキをかけましょう。制動灯(ストップランプ)が点灯し、後車への合図になります。

19

②完全に車が止まったら、

- 方向指示器スイッチを戻し、メインスイッチのキーを“OFF”の位置にしてエンジンを止めます。

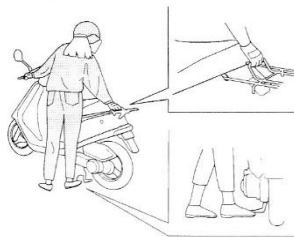


注意

- 走行中はメインスイッチのキーを操作しないでください。メインスイッチのキーを“OFF”や“LOCK”の位置にすると電気系統は作動しません。走行中にメインスイッチのキーを操作すると思わぬ事故につながるおそれがありますので必ず停車してから操作してください。

③左側において、平らな場所でメインスタンドを立てましょう。

- 交通のじゃまにならない平坦な場所でメインスタンドを立てましょう。不安定な場所では車が倒れることがあります。
- 左手でハンドルをまっすぐにして、右手でリヤキャリアをしっかり持ち右足でスタンドを左右同時に地面につけて、立てましょう。



④盗難予防のため、駐車するときは必ずハンドルロックをかけ、メインスイッチのキーを抜いておきましょう。(11ページ参照)チェーンロック等のご使用もおすすめします。

注意

- 交通のじゃまにならない安全な場所を選んで駐車しましょう。

20

運行前点検・定期点検

お車をご使用のかたの安全と車の事故を未然に防ぐため、道路運送車両法に準じて、1日1回の運行前点検と6・12か月ごとの定期点検を設けてあります。必ず実施してください。

点検項目の詳細は、別冊「整備手帳」をご覧ください。

なお、お車を長期間お乗りにならないときでも定期点検整備を実施してください。

初回1か月目(又は1000km)の点検は、お買いあげのホンダ販売店が無料でお受けします(但し他店では有料となります)。

点検整備数値は、39ページのサービスデータをご参照ください。

異常が認められた場合は、ご使用のかたご自身またはホンダ販売店で必ず整備をしてください。

運行前点検

運行前点検は、車を使用する人が、1日1回運転する前に実施する点検です。

- 前日の異状箇所
- ブレーキレバーの引きしろ、きき具合
- タイヤの空気圧、亀裂、損傷、異様な摩耗、金属片、石などの異物
- タイヤの溝の深さ
- エンジンオイル量
- 燃料の量
- 灯火装置、方向指示器
- 後写鏡(バックミラー)の写影
- 自動車登録番号標の汚れ、損傷
- 反射器の汚れ、損傷

21

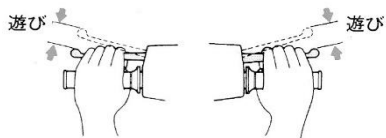
前日の異状箇所の点検

前日又は前回運転したとき、悪かったところはありませんか。

ブレーキレバーの引きしろ・きき具合

●ブレーキレバーの遊び(引きしろ)

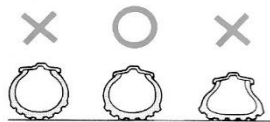
ブレーキレバーには適切な遊びが必要です。ブレーキレバーを放した状態から、レバーを軽く引き、重く感じるまでの遊び(引きしろ)が適当であるかを点検します。ブレーキレバーの遊びが適当でないときや、引きごたえがやわらかく感じられる場合は異常です。



タイヤの点検

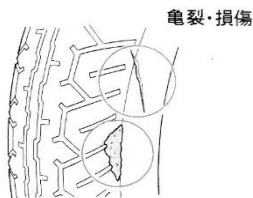
《空気圧の点検》

タイヤの接地部のたわみ状態を見て、空気圧が適当であるかを点検します。タイヤ接地部のたわみ状態が異常な場合は、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。



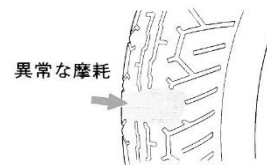
《亀裂・損傷》

タイヤの接地面や側面に、著しい亀裂や損傷がないかを点検します。



《異常な摩耗》

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。



《金属片、石などの異物》

タイヤの接地面や側面に、釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないかを点検します。

注意

- 空気圧が正常でなかったり、タイヤに亀裂損傷や異常摩耗があるとハンドルをとられたり、パンクの原因になります。

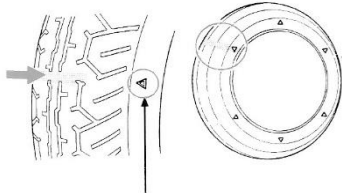


22

〈溝の深さ〉

溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ(摩耗限度表示)により点検します。ウェアインジケータがあらわれたときは、使用限度ですのでただちにタイヤを交換してください。

ウェアインジケータ
(摩耗限界表示)



ウェアインジケータ位置表示マーク

燃料の量の点検

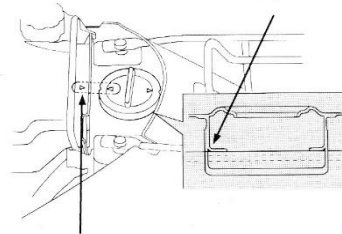
ガソリンが目的地まで走行するのに十分な量であるかを点検します。

- 燃料計の指針がE(赤ワク)に入りかけたときは、できるだけ早めに補給してください。
- 燃料タンクキャップは右に回すとしまります。タンクキャップの“△”マークとバッテリーカバー上面の“△”マークが合うところまで確実に回してください。

注意

- ガソリンの補給は、必ずエンジンを止め、火気厳禁で行ってください。
- 無鉛ガソリンをご使用下さい。
- ガソリンはレベルプレート以上に入れないでください。入れすぎると燃料タンクキャップの回りからガソリンがにじみ出ることがあります。

レベルプレート



マークを合わせる

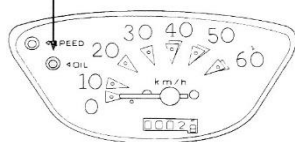
エンジンオイル量の点検

メインスイッチをONにし、オイル警告灯が点灯しないかを点検します。

オイル警告灯が点灯したら、オイルが少なくなっていますので、オイルを補給してください。

エンジンオイルの補給は、34 ページ参照。

オイル警告灯



注意

- オイルは切らさないでください。オイル警告灯が点灯したまま走行するとオイルが切れエンジンがこわれます。

灯火装置、方向指示器の点滅具合、汚れ、損傷の点検

〈前照灯(ヘッドライト)、尾灯(テールランプ)〉

エンジンを始動してライトがつくか、また同時にレンズの汚れや破損についても点検してください。

〈制動灯(ストップランプ)の点検〉

メインスイッチを“ON”にします。前輪、後輪ブレーキレバーを別々に引いて、制動灯(ストップランプ)が点灯するか、またレンズの汚れや破損についても点検してください。

〈方向指示器の点検〉

メインスイッチを“ON”にします。方向指示器スイッチを操作して、前後左右のランプが正しく点滅し、同時に方向指示器の作動音が鳴ることを確認します。またレンズの汚れや破損についても点検してください。

後写鏡(バックミラー)の写影の点検

シートに座って、正しい運転姿勢をとったとき、後方が後写鏡に正しく写るかを確認し、点検します。

自動車登録番号標(ナンバープレート)の汚れ、損傷の点検

自動車登録番号標に汚れや損傷がないかを点検します。また、確実に取付いているか手でさわって確認し、点検します。

反射器の汚れ、損傷の点検

反射器に汚れ、損傷がないかを点検します。

6 か月点検

定期点検は、車を使用する人が定期的に行う点検で、6 か月点検と12 か月点検の2種類があります。

- 6 か月点検項目には、㉔と㉕の項目があります。別冊「整備手帳」の点検整備方式の一覧表を参照してください。ここでは㉔の項目とメーカー推奨項目の一部を選んで点検要領を説明してあります。
- ㉔……点検を行うに当たって、車の構造、装置に関する基礎的な技術知識を有する人であれば、自らでも実施可能なもの。
- ㉕……点検を行うに当たって、専門的な技術知識を必要とするもの、専門的な機械、工具や測定器具を必要とするもの、装置または部品の分解、取外しを伴うもの。

- 点検結果は、所定の記録用紙に記録してください。ご自身でできない項目については、ホンダ販売店で点検を受け記録してください。
- 点検結果の記録用紙は、別冊整備手帳に綴られています。なお、記録は1 か年保存するようにしてください。
- メーカー推奨項目の点検結果は、点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

注意事項

点検するときは、安全に十分注意してください。

- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後の点検は、エンジン本体、マフラやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や、風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。
- 走行して点検する必要があるときは、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意して行ってください。

25

かじ取りホーク(フロントホーク)の点検

《損傷》

かじ取りホークに損傷がないか目視により点検します。

また、ハンドルを上下に動かし、かじ取りホークの曲りによる異音がないかを点検します。

《ホークスピンドル(ステアリングステム)の取付け状態》

ホークスピンドルの締付けナットにゆるみがないかをスパナなどの工具により点検します。工具で点検できない場合は、ハンドルまたはかじ取りホークを上下、前後方向に動かし、がたがないかを点検します。

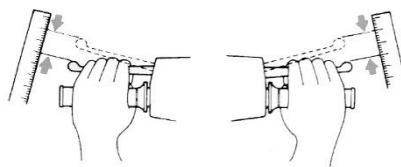


ブレーキの点検

《ブレーキレバーの遊び》

●ブレーキレバーの遊び

抵抗を感じるまで、手でブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。遊びの調整は、31 ページ参照。



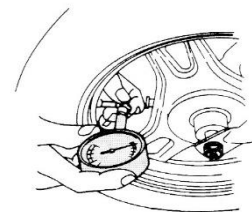
《ブレーキのきき具合》

乾燥した路面で、低速走行して前輪ブレーキ、後輪ブレーキを別々に作動させ、きき具合が十分であるかを点検します。

タイヤの点検

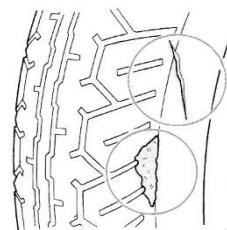
《タイヤの空気圧》

タイヤの空気圧をタイヤゲージで点検します。空気圧は、タイヤが冷えているときに測定してください。



《亀裂と損傷》

タイヤの接地面や側面に亀裂や損傷がないかを目視により点検します。

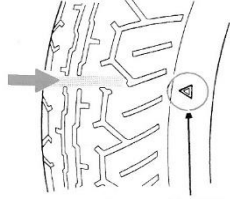


26

《溝の深さと異状な摩耗》

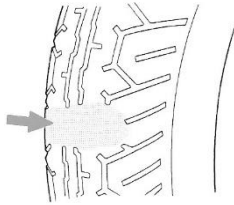
- 溝の深さに不足がないかをウェアインジケータ（摩耗限度表示）により点検します。ウェアインジケータがあらわれたときは、使用限度ですのでただちにタイヤを交換してください。
- タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

ウェアインジケータ
(摩耗限界表示)



ウェアインジケータ位置
表示マーク

異状な摩耗

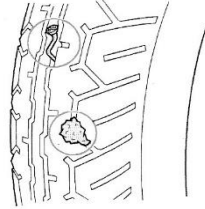


《金属片、石などの異物》

タイヤの接地面や側面に、釘や石などがささったり、かみ込んだりしていないかを点検します。

注意

- 空気圧が正常でなかったり、タイヤに亀裂損傷や異常摩耗があるとハンドルをとられたり、パンクの原因になります。



バッテリー液量の点検

この車には、密閉式のメンテナンスフリーバッテリーが装備されております。バッテリー液の点検、補給は不要です。異常が認められた場合は、ホンダ販売店で整備してください。

注意

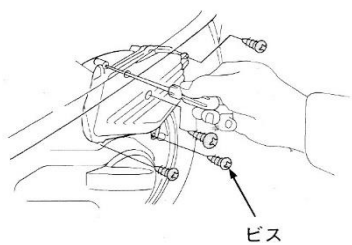
- 密閉式バッテリーですので、液口キャップは絶対に取外さないでください。
- 長期間使用しない場合は、自己放電と電気もれを少なくするため、車からバッテリーを降ろし完全補充電して風通しのよい暗い場所に保存してください。もし車に積んだまま保存する場合は、⊖側ターミナルを外してください。

エアクリーナエレメントの点検

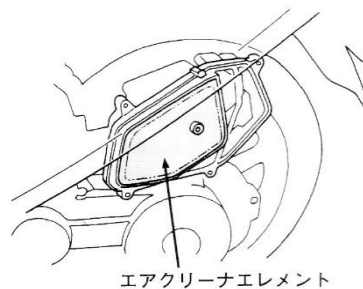
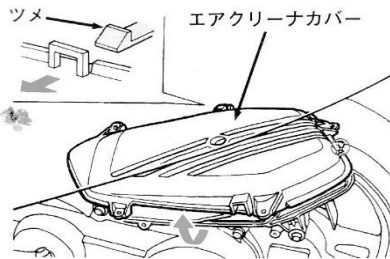
エアクリーナエレメントを取出し、汚れによる詰りなどがないかを目視により点検します。

《取外し》

- ビスを外します。



- 下図のように、エアクリーナカバーを下側から開いてツメを外し、エアクリーナカバーを取外します。



《取付け》

取付けは、取外しの逆手順で行います。

清掃の方法は、34ページ参照。

注意

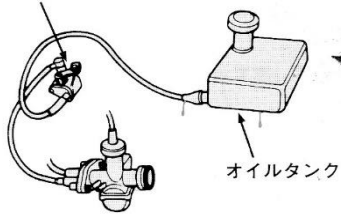
- エアクリーナエレメントの取付けが不完全であると、ゴミやほこりを直接吸ってシリンダの摩耗や出力低下を起し、エンジンの耐久性に悪影響を与えます。確実に取付けてください。
- また、洗車時エアクリーナに水を入れないようご注意ください。エアクリーナ内部に水が入ると、始動不良等の原因になります。

エンジンオイルの点検

《油漏れ》

オイルタンクおよびオイルホースなどから、オイルが漏れていないかを点検します。

オイルポンプ



オイルタンク

トランスミッションオイルの点検

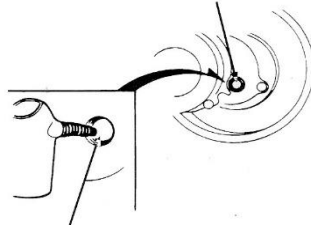
《オイルの量》

- 平坦地でメインスタンドを立て、エンジン停止2～3分後にボルトを外し、ミッションオイル量がチェックボルト穴まであるかを点検します。
- 油面がチェックボルト穴より低いときは、オイルフィラキャップを外し、チェックボルト穴からオイルが出てくるまで、オイルを補給してください。
- 補給後、オイルチェックボルトを確実に取付ます。

《推奨オイル》

“ホンダ純正オイル ウルトラU(4サイクル二輪車用)”またはAPI SE級の10W-30のエンジンオイル。

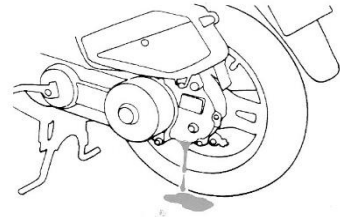
オイルチェックボルト



チェックボルト穴

《油漏れ》

トランスミッションケースなどから、オイルが漏れていないかを点検します。



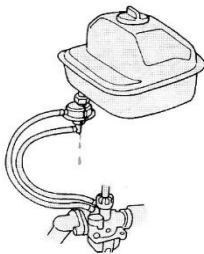
注意

- 補給するときは、オイル注入口からゴミなどが入らないようにしてください。オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。
- オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。
- 銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質オイルを使用しないでください。変質して故障の原因になることがあります。

29

燃料漏れの点検

燃料コック、燃料タンク、ホース、パイプ、キャブレターなどからガソリン漏れがないかを点検します。



灯火装置、方向指示器の作用の点検

- 前照灯(ヘッドライト)、制動灯(ストップランプ)および尾灯(テールランプ)のスイッチを作動させ点灯具合を点検します。また前照灯の明るさや、照射方向に異常がないかを壁面にあてるなどして点検します。
- 左右の方向指示器を作動させ、毎分60～120回の一定の周期で点滅するかを点検します。
- 前照灯(ヘッドライト)、尾灯(テールランプ)、制動灯(ストップランプ)、方向指示器のレンズに変色、損傷がないか、また、取付けにゆるみがないかを点検します。

シャシ各部の給油脂状態

シャシ各部の給油状態が十分であるかを目視などにより点検します。



簡単な整備

ここでは、点検の結果、清掃、調整、交換などの整備が必要になった場合、通常行われることが多いものの代表例について、その実施方法を説明してあります。

注意事項

整備するときは、安全に十分注意してください。

- 場所は、平坦地で足場のしっかりした所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- 適切な工具を使用してください。
- 整備はエンジンを停止しキーを抜いた状態で行ってください。
- エンジン停止直後の点検・整備は、エンジン本体、マフラーやエキゾーストパイプなどが熱くなっています。火傷にご注意ください。

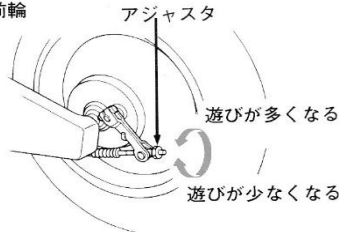
ブレーキレバーの遊びの調整

ブレーキアーム部のアジャスタにより遊びを調整します。

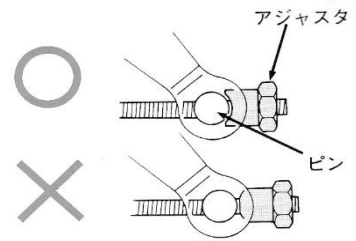
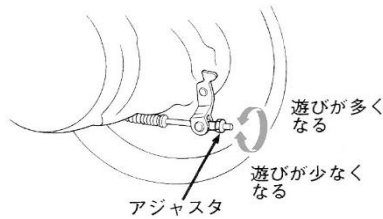
調整は、アジャスタを回して行います。

調整後は、ブレーキレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで確認します。

■前輪



■後輪

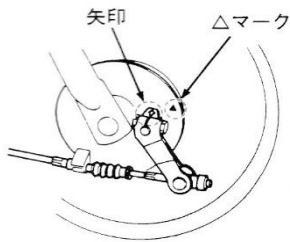


注意

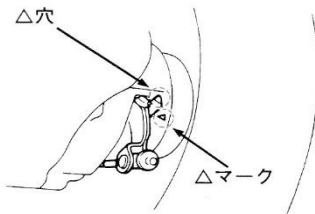
- ブレーキ調整後、アジャスタの凹部がピンに合っていることを確認してください。合っていないと走行中にブレーキの遊びが変化することがあり危険です。

31

■前輪



■後輪



注意

- ブレーキレバーをいっぱい握って、ブレーキインジケータの矢印(前輪)または△穴の頂点(後輪)とブレーキパネルの△マークが一致する場合は、ブレーキシューの使用限界ですのでホンダ販売店で整備を受けてください。

バッテリータミナル部の清掃

ターミナル部に汚れや腐食がある場合は、バッテリーを取外して清掃します。

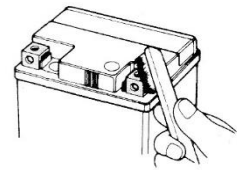
ターミナル部が腐食して白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いで拭きます。

ターミナル部の腐食が著しいものは、バッテリーコードを外し、ワイヤブラシまたはサンドペーパーで磨きます。

清掃後、バッテリーコードを取付け、ターミナル部にグリースを薄く塗っておきます。

注意

- バッテリーを取扱うときは火気を近づけないでください。
- ターミナルからバッテリーコードを取外す場合は、メインスイッチを“OFF”にし、必ず⊖側バッテリーコードから外してください。取付けの場合は、⊕側コードを先に取付け、次に⊖側コードを取付けてください。ターミナル部にゆるみが生じないように確実にボルト/ナットを締付けてください。



注意

- バッテリーを交換する場合は、必ずメンテナンスフリーバッテリーをご使用ください。

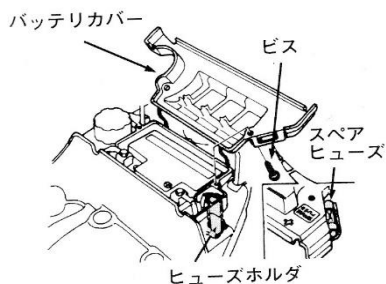
32

ヒューズの交換

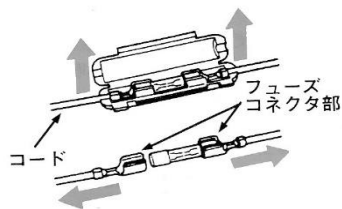
メインスイッチを切り、ヒューズが切れていないかを点検します。

ヒューズが切れている場合は、指定されている容量のヒューズと交換します。

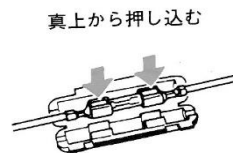
- ヒューズは、バッテリーカバーを外すとバッテリー付近のヒューズホルダにセットされています。
- ヒューズの取外しはヒューズホルダを開け、ヒューズコード両端を持って引き上げ、ヒューズコネクタ部をスライドさせて行ってください。
- 交換してもすぐにヒューズが切れる場合は異常です。



《取外し》



《取付け》



注意

取外し時

- ホルダをひろげないように注意して取外してください。

取付け時

- ヒューズをコネクタ部に取付け後、ヒューズが容易にスライド方向(横方向)に動かないか確認してください。ヒューズが容易に動くと思わぬ事故を招くことがあります。
- 指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱、焼損の原因になるので絶対に使用しないでください。
- 電装品類(ライト、計器など)を取付けるときは車種毎に決められている「ホンダアクセサリ」をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリーあがりをおこすことがあります。
- 洗車時ヒューズホルダのまわりに水を強く吹きつけることは避けてください。

33

エアクリーナエレメントの清掃、交換

《清掃》

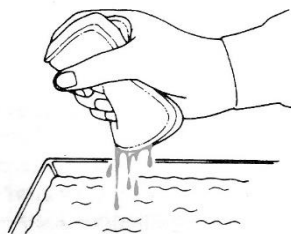
1. エアクリーナエレメントを取外します。
2. エアクリーナエレメントをきれいな洗油で洗い、絞ってから乾いた布でつつみ、さらに絞ります。
3. きれいなオイルに浸し、固くしぼって取付けます。

《推奨オイル》

“ホンダ純正オイル ウルトラ2 U(4サイクル二輪車用)”またはAPI SE級の10W-30のエンジンオイル。

《交換》

交換は 28 ページの《取外し》《取付け》の手順に従って行ってください。



注意

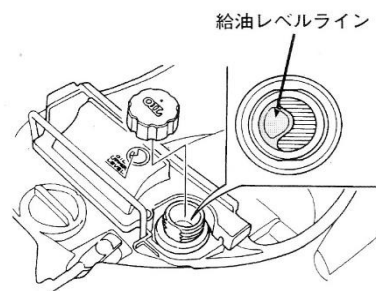
- ガソリンや引火点の低い洗浄剤は、非常に燃えやすいので、エレメントの清掃には、使用しないでください。
- エアクリーナエレメントの取付けが不完全であると、ゴミやほこりを直接吸ってシリンダの摩耗や出力低下を起こし、エンジンの耐久性に悪影響を与えます。確実に取付けてください。
- また、洗車時エアクリーナに水を入れないようご注意ください。エアクリーナ内部に水が入ると、始動不良等の原因になります。

エンジンオイルの補給

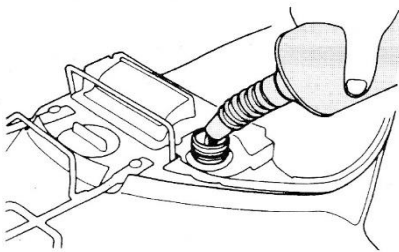
1. 平坦地でメインスタンドを立てます。
2. シートを開けます。
3. オイルタンクキャップは左に回して外します。
4. オイルタンクにオイルを補給レベルラインまで補給します。
5. オイルタンクキャップは右に回すとしまります。根元まで確実に締付けます。
6. シートを下げ、シートロックがかかったことを確認します。

《推奨オイル》

ホンダウルトラ2 スーパー



34

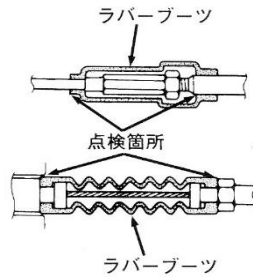


注意

- 推奨オイル、ホンダウルトラ2スーパーと他社銘柄オイルとの混用はエンジン不調の原因になりますので避けてください。
- オイル補給後、ゴミ、ホコリなどの混入がないようご注意ください。
- 補給後、しっかりキャップを取付けてください。
- オイルは補給レベル以上に入れないでください。オイルがにじみ出るおそれがあります。

ケーブル類のラバーブーツの点検

ケーブル類にはインナケーブル保護のため、ラバーブーツが取付けられています。常に正しく取付けられているか点検してください。洗車時には、ラバーブーツに直接水をかけたり、ブラシを当てたりしないでください。汚れのひどい場合は、固くしぼった布等で拭きとるようにしてください。

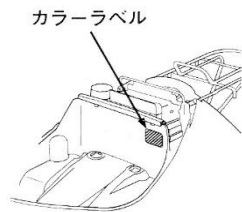


車のお手入れ

- 洗車時、マフラに水を入れしないでください。マフラ内部に水がたまると始動不良やサビの発生などの原因になることがあります。
- 洗車時、ブレーキの制動部分に水をかけないようにしてください。水がかかるとブレーキの効き具合が悪くなる場合があります。洗車後は、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意し、低速で走行しながらブレーキを軽く作動させて、ブレーキの効き具合を確認してください。もし、ブレーキの効きが悪いときは、ブレーキを軽く作動させながらしばらく低速で走行して、ブレーキのしめりを乾かしてください。
- 車にワックスをかけるとき、塗装面及び樹脂部をコンパウンド、ワックスなどで強く磨くと塗膜が薄くなったたり、色むらが生じますのでご注意ください。

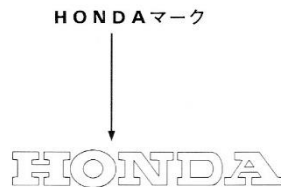
色物部品をご注文のとき

色物部品をご注文のときは、カラーラベルのモデル名とカラー、コードもお知らせください。カラーラベルは、トランク内に貼ってあります。



マフラの純正マークについて

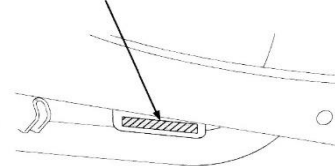
マフラの後部には、ホンダ純正部品を表す“HONDA”マークが刻印されています。



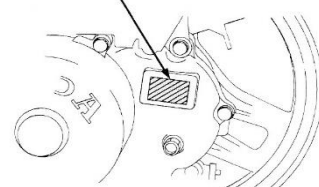
フレーム号機

フレーム号機は、部品を注文するときや、車の登録に関する手続に必要です。また、フレーム号機は、お車が盗難にあった場合に、車を捜す手掛りにもなります。ナンバープレートの登録番号と共に別紙に記録し、車と別に保管することをおすすめします。

フレーム号機打刻位置



エンジン号機打刻位置



エンジンが始動しないとき

ご使用中に万一故障した場合は、お買いあげ販売店もしくは最寄りのホンダ販売店へお気軽にお申しつけください。

エンジンがかからない。
走行中に止まってしまう。



こんなときは、ホンダ販売店に持ち込む前に、次のことを調べてみましょう。

- ガソリンは入っていますか。
燃料計の針がレッドラインに入っていたらガソリンを補給してください。
- エンジンのかけかたは正しいですか。

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16
17	18	19	20
21	22	23	24
25	26	27	28
29	30	31	32
33	34	35	36
37	38	39	40
41	42	43	44
45	46	47	48
49	50	51	52
53	54	55	56
57	58	59	60
61	62	63	64
65	66	67	68
69	70	71	72
73	74	75	76
77	78	79	80
81	82	83	84
85	86	87	88
89	90	91	92
93	94	95	96
97	98	99	100

諸元表

		バル
型 式		A-AF17
長 さ		1,570 mm
幅		590 mm
高 さ		995 mm
軸 距		1,100 mm
原動機種類/総排気量		ガソリン・2サイクル/0.049 ℓ
車 両 重 量		55 kg
乗 車 定 員		1人
タ イ ヤ	前 輪	2.75-10 38J
	後 輪	2.75-10 38J
最 低 地 上 高		105 mm
燃 料 消 費 率		60.4 km/ℓ (車速30 km/h)
制 動 停 止 距 離		3.5m(初速20 km/h)
最 小 回 転 半 径		1.7 m
圧 縮 比		6.8
圧 縮 圧 力		10.0 kg/cm ² - 600 r p m
最 高 出 力		4.4 P S / 6,000 r p m
燃 料 タ ン ク 容 量		3.8 ℓ
点 火 形 式		C D I 式 マグネット点火
点 火 時 期		B T D C 17° / 1,800 r p m
点 火 プ ラ グ		B R 4 H S A, B R 6 H S A, B R 8 H S A (NGK) W14FR-L, W20FR-L, W24FR-L (日本電装)
バ ッ テ リ		12V 3 A h (密閉式メンテナンスフリーバッテリー)
ク ラ ッ チ		乾式多板シュー式

サービスデータ

前輪ブレーキレバーの遊び		10-20 mm
後輪ブレーキレバーの遊び		10-20 mm
タイヤ空気圧	前輪	1.25 kg/cm ²
	後輪	1.75 kg/cm ²
エンジンオイル量(分離給油)		0.8 ℓ
トランスミッションオイルの量		0.09 ℓ
ヒューズ		7 A
点火プラグの点火すきま		0.6-0.7 mm
エアクリーナエレメントの形式		ウレタンフォーム式
電球(バルブ)	ヘッドライト	12V25/25W
	ストップ・テールライト	12V18/5W
	ウインカ	12V10W

